

## ユダヤ・イスラエルに思う<sup>⑬</sup> イスラエルの経済は今

長谷川 修

イスラエルはエルサレムを首都と自称するがこれに同意しているのは米国のみで、米国以外の国はテルアビブを実質首都としここに大使館を置く。エルサレムが三千年の歴史を持つ宗教都市であるのに対し、こちらは百年前に開拓された近代都市で経済の中枢を担う。

イスラエル経済の変遷をみてみよう。

イスラエルの基幹産業は農業とダイヤモンドだった。

国土の六割は砂漠で、また降雨量も少なく大きい川もないことから、農業の立地としては恵まれていない。このような中で海水淡水化技術や点滴灌漑技術によって、今や砂漠は耕地に変わり食料自給率は九〇%を超え、果物類、乳製品等の輸出は伸びている。

ダイヤモンド加工は、ユダヤ人のネットワークと研磨技術を生かし外貨を稼いできた。ここ一〇年ほどは工賃の安いインド、中国の攻勢で停滞みだが、それでも輸出の二〇%を占める。

現在のテルアビブではニッチ高度技術志向の起業が盛んだ。サイバーセキュリティ分野でのファイヤーウォール、情報通信分野でのCPUやUSBメモリ、人工知能分野での大量データ処理、医療分野でのカプセル型内視鏡、金融分野での暗号化技術等々、枚挙に暇がない。

イスラエルがIT起業国家に生まれ変わった要因としては、まず国防軍の存在が大きい。イスラエル軍はサイバー防衛と情報を重視しており、エリートに対し高度な専門教育を施している。ここで訓練を受けた徴兵や軍人が、除隊後に大学や研究機関、民間企業等を経て起業する。次に世紀の変わり目頃から、インテル、IBM、MS、GAFAGM、サムソン等の多国籍企業がイスラエルに拠点を設置した。彼らとの相互交流が新規開発や起業化に結びつく。最後に、ユダヤ人の国民性がある。理工系に優れていることに加え、「階層のない社会」「議論好き」「失礼千万<sup>イムポライト</sup>」「短気<sup>イムベイヤント</sup>」を挙げる人は多い。

スタートアップ企業育成に関し日本はイスラエルに学ぼうとしているが、背景が大きく異なっている気がする。